

大阪成蹊大学 令和五年度卒業式

学長式辞

大阪成蹊大学の卒業生、大学院教育研究科の修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございました。

また、卒業生・修了生を物心両面で支えてこられたご家族・関係者の皆さまに、お礼とお祝いを申し上げます。

本日は、学園理事長・総長、学園後援会、蹊友会、教育振興会の役員の方々に、ご参加いただき、卒業生の門出をともにお祝いいただきありがとうございます。

大阪成蹊大学を卒業されるこの機会に、皆さんがこれから社会で活躍していくための大切なことについて一緒に考えたいと思います。そのために、2つの話題を取り上げます。

1つは、社会が元気であり続けるために必要なこと、もう1つは、個人が豊かな人生を送るために必要なことについてです。

■ 新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言が全国に発出されたのは、皆さんが入学した2020年4月のことでした。大学は5月の連休明けまで閉鎖となり、その後、オンラインの遠隔授業、または対面授業を開始しました。

我々教員も皆さんも慣れない遠隔授業でしたが、何とか4年間を乗り切ってきました。一方で、経済的な支援もたいへんだったことと思います。卒業生・修了生の皆さんの頑張りと、ご家族のお支えに心から敬意を表します。

コロナ禍の影響は授業だけではありませんでした。

クラス、課外活動、アルバイト先などでの友人とのリアルな交流も制約を受けました。

他者に対して思いやりが深く、自分の良心に忠実であることを「忠恕(ちゅうじょ)」といい、大阪成蹊学園の行動指針となっています。

とりわけコロナ禍の時代に学生生活を送った皆さんには、卒業後も「忠恕」を忘れず、身近な相手の内面を思いやり、他者の心の痛みを自分のことのように感じる力、すなわち「共感する力」を意識して育んでいただきたいと思います。

新しい時代の入口に立った今、「忠恕」は、他者との関係を通じて社会全体が元気であり続けるための指針ともなり得るものです。

私たちは、限られた友人とだけでなく、社会と「共感する力」を意識していききたいものです。

■次に、個人として皆さんが、様々な活動を通じて、楽しく有意義な人生を送るために必要なことについて考えたいと思います。

それは、各個人が学び続ける意志を持つことと、健康であるように努めることだと思います。

ここで必要となる資質や能力ですが、フランスの経済学者で未来予測で知られるジャンク・アタリは、『危機とサバイバル』という著書の中で、21世紀を生き抜くための7つの原則として、まずは、先ほども述べた「共感する力」、加えて、「自己を肯定」すること、さらには「独創性」をもつことなどを述べています。

「自己を肯定」すること、すなわち自身自身を貴重な存在だと認識することはとて

も大事です。他者への理解や尊重、責任感も自己の肯定の上で初めて芽生えるものでしょう。

また、「独創性」は学問や芸術の中にだけあるものではなく、私たちの日常にもあって、困難を自分の進歩に変えることができるようなポジティブな思考力の元となるものです。

■ 私たちは、現状に関してさえ十分に把握できていないことが普通です。まして、未来についてはいつも不完全な情報しか得られません。社会や世界は絶え間なく変化し続けており、そのような中で、私たちは、判断し行動しなければなりません。

これからもたびたび課題が現れ、危機が生ずることでしょう。高い「自己肯定感」のもとでそれらに真摯に向かい合い、「創造性」をもとにポジティブな思考力を発揮させ、忠恕の精神に基づく「共感する力」を駆使して、ピンチをチャンスに変えて欲しいと切に願います。

未来を切り拓く主役は皆さんです。

最後になりますが、皆さんが、大阪成蹊大学における多くの良き出会いを財産として活躍されますことを祈念し、皆さんの栄（は）えある門出を心から祝福申し上げます。

本日は、誠におめでとうございます。

二〇二四年三月一八日

大阪成蹊大学 学長 中村 佳正